

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	音楽と社会		
担当者(Instructors)	水野 伸子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)
音楽は社会や文化を反映するものであるとともに、反発や抵抗も映し出す鏡でもある。時代の社会の影響を受けて発展してきた現代の多様な音楽文化についてのレクチャーとディベートおよびワークショップを通して、音楽文化を社会との関わりからとらえ直すことを目的に行う。各授業のテーマは音楽の多様性、社会性、生存価、ICT等について扱う。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	各授業のテーマに関するレクチャー（講義）とディベート（議論）とワークショップ（体験）から構成する。ディベートはグループワークとその結果を授業内で発表し議論するまでの内容とする。ワークショップでは実際にiPadのDAWソフトを用いた音楽編集も予定している。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の目的と概要	音楽文化を社会との関わりからとらえ直すという本授業の目的および授業方法であるレクチャー、ディベート、ワークショップの表す内容を理解する。	□
第2回	音楽のコンテンポラリーな可能性（レクチャー）	レゲエの「Despacito」を題材に、いろいろなアレンジを比較視聴し違いを分析する。光山組による尺八と箏のカバーを取り上げ、音楽のコンテンポラリーな可能性について考える。	□
第3回	音楽研究プレゼンの作成方法（レクチャー）	音楽と社会の視点から問いを設定した分析研究を発表する。これまでの学生の作成例も紹介し、プレゼン作成の方法を理解する	□
第4回	テーマの設定、方法の検討	例えば「‘推し’の音楽を〇〇の観点から分析する」「日本と海外の国歌の比較」など自分のテーマを模索し、文献調査を行う。	□
第5回	‘推し’の音楽分析：分析結果をまとめる	テーマに沿って調査した結果をパワーポイント等にまとめ、考察を進める（オンデマンド）。	■
第6回	‘推し’の音楽分析：プレゼンのグループ発表（ディベート）	各自が作成したプレゼンをグループ内で発表し、他者の分析手法を知り、音楽的な見方や考え方を養う。	□
第7回	‘推し’の音楽分析：プレゼン全体発表（ディベート）	各自が作成したプレゼンを全体場で発表し、音楽の多様な側面、社会との関わりを各々の発表から理解する。	□
第8回	音楽の生存価（レクチャー）	ドキュメンタリー「カンタ！ティモール」の鑑賞を通し。人が生きることと音楽との関わりについて問いを持つ。	□
第9回	音楽の生存価（ディベート）	ドキュメンタリーのウェビングマップを作成し、情報収集したものから関係や傾向を見出す。それを基に問いを立てて論じる	□
第10回	音楽の生存価（ワークショップ）	「カンタ！ティモール」の監督である広田奈津子氏から制作に関わる話を伺い、質疑応答を経て音楽の生存価に対して考えを深める。	□
第11回	音楽とプロパガンダ（レクチャー）	ナチスのプロパガンダに利用されたワーグナーの作品を取り上げ、音楽が支配者のツールに使われる事例を知る。	□
第12回	音楽とは何か（ディベート）	フランクルの「夜と霧」の音楽を扱った場面から「音楽とは何か」という問いに対して論述し、音楽を人との関わりから捉え直す。	□
第13回	DAWソフトを用いた音楽作成（ワークショップ）	DAWソフトGarageBandを用いて、音楽制作・編集を実際に行う。	□
第14回	DTM作品の発表交流（ワークショップ）	DTM作品を発表交流し鑑賞し合うことにより、DTMのこれからの音楽文化の一旦を担う可能性について考える。	□

第15回	音楽と社会	音楽の背景を追求すると社会が見えてくる。本授業でテーマとした内容を総括し音楽と社会の関係を改めて考え、自分らしく生きるために何が課題であるのかを明確にする。	□
------	-------	--	---

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次の授業で学ぶテーマに関して図書館の本やインターネットの情報から予習し、疑問を明確にする。（2時間程度）。事後学習では、授業でレクチャーされた内容に対する自身の考えをまとめたり、グループでまとめた内容の整理をして発表の準備をする（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出した課題やレポートは添削して返却し、次の授業の中でフィードバックする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	音楽を社会との関係から捉え直し、自分なりの考えを持つことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験では、授業のまとめとして音楽の社会的・文化的課題に対するレポート作成を予定している。その他は、授業時に作成したプレゼンなどを含む。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	夜と霧ードイツ強制収容所の体験記録 V.E. フランクル（著）、霜山 徳爾（翻訳）	4622006014
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		